



日本サーバス本部会報

2022. 9 日本サーバス会長 NS

バラの中には、平和への希望を託されたものもあります。かつて2度の大きな戦争を起こした人類はその反省に立って、世界の平和を願い、20世紀を代表するバラの名花に‘ピース’と名付けました。

しかし今一人の暴君がその反省を覆し、ウクライナをまた世界を破壊しています。6ヶ月以上に及ぶ戦争は美しい大地、海、空までも破壊し、膨大なCO2を排出させ、SDGsの努力を台無しにしています。ますます気候危機は増大し世界の気候を狂わせています。それでも私たちは粛々と歩みを進めなければなりません。



今月号ではSDGsのためにDIYの技術を駆使して素晴らしい生活用品、長崎の日の反戦行動にちなみ、三宅一生さんの作品を介したイギリスのサーバスフレンドとの思い出の記事、京都からの枕草子便りなどご紹介します。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

- 1. 我が家と私のSDGs目標7と12について..... [MA](#)
- 2. 第4回東アジア地区オンライン交流会の感想
 - 第4回東アジア地区オンライン交流会に参加して..... [KN](#)
 - 第4回東アジア地区オンライン交流会に参加して..... [MM](#)
- 3. My Memories in August----- Never Again! Stop the War!..... [IM](#)
- 4. 春は曙、夏頃は宵なり、..... [KK](#)
- 5. あとがきにかえて..... [NS](#)

1. 我が家と私のSDGs 目標7と12について

東海北陸支部 MA

これまで私は、特別にSDGsを意識せず、電力問題と再利用（廃棄物削減）に関心があり、いくつかの活動をしてきましたが、このところのサーバス会員との交流のなかで、これが目標7エネルギーをみんなにそしてクリーンにと、目標12つくる責任つかう責任の範疇と気がついたので紹介します。

まず目標7ですが、電力購入先を中電から生活クラブエナジーに変更しました。将来的にグリーン電力100%（現在は60%）をめざす姿勢に共感したためです。加えて契約電力を、50Aから毎



年10Aずつ減らし、今は30Aです。現設備のまま20Aへの変更は無理があるので、蓄電池システムの導入とあわせて行うつもりです。

目標12については以下の3つと、妻が日常的にやっている生ゴミの畑還元です。

1) 自動車用廃棄バッテリーを転用した非常用小型蓄電池システム

これは我家の自家用車に載っていた、80AHのバッテリーを新品に更新した際の廃棄物で、インバーターと充電器をあわせて非常用蓄電池として再生

させました。携帯電話の充電やテレビの視聴は可能です。また、このシステムで冷蔵庫の稼働テストを行い、100AHの新品バッテリー3台のシステムも作り、日々貯蓄電力量をチェックし、80%を切ったら充電するという、少々手間のかかるサイクルを継続中です。

2) 木造住宅の背割り柱材を転用した堆肥ボックス

背割



り部分にのこぎりをいれて半割り柱とし、両端を加工して積み重ねました。内側にたまった草木は、やがてよい堆肥になります。



3) 使わなくなった製図板を転用した卓球台

左側が古い製図板です。ところどころ表面板が浮いていて、ピンポン球がイレギュラーバウンドしますが、家庭内では楽しめます。

以上

2. 第4回東アジア地区オンライン交流会の感想

The image shows a Zoom meeting banner on the left and a video thumbnail on the right. The banner is yellow and white with text in multiple languages: 'Welcome 歡迎您 ようこそ тавтай морил 환영하다', 'THE 4TH SERVAS EAST ASIA ONLINE MEETING', '14:00-16:00', '30TH JUL 2022', and 'HOST BY SERVAS EAST ASIA'. The video thumbnail shows a woman in a red top with the text 'SERVAS MONGOL NOMAD LIFE' and 'zoom' at the bottom.

第4回東アジア地区オンライン交流会に参加して

東海北陸支部 K N

サーバスの国際会議への参加は初めて、どんな形で行われるか参加前から楽しみでした。

今回のホストは、台湾で司会の M. W. さんが鮮やかな伝統衣装で参加され華やいだ雰囲気が始まりました。少人数の東アジアの Local な会議と思いきや欧米含む 26 か国 112 名登録、実参加者 60 数名の大規模のものとなりました。2 部構成の会議は、第 1 部はモンゴルメンバースピーチ、第 2 部は全参加者によるグループミーティングでした。

第 1 部：モンゴルサーバスメンバーによるプレゼン【Nomad Life in Mongolia】

(1) H さん（モンゴル事務局長）によるモンゴル概説

- ① 彼女は広島大で Phd を取った親日家の数学教師で、世界中のサーバスメンバーには是非モンゴルを訪れてほしいという母国愛・熱意を感じました。

Ger（ゲル、遊牧テント）での体験宿泊プログラムの紹介は、我々が経験したことのない遊牧生活を体験できるもので、興味深く参加者に旅愁を誘うものでした。

現状では Ger の遊牧民は全人口 340 万人の 2.5% 程の人達が、牛 1 頭、ヒツジ 6 頭の家畜と共に年 4 回移動する「Nomad(さすらい)の旅人」としての生活を続けています。

- ② 7 月は Nomad Festival で多くのビジターの exchange prg. を受け入れており、Ger テント内で宿泊、民族楽器フイドル（馬のたてがみの弦）演奏を楽しむツアーに日本や韓国のメンバーが 2015, 2018 に参加され好評でした。

(2) 若いサーバスメンバー B さんによる Ger 子供誕生日パーティ

彼女のような都市居住者も伝統へのあこがれから Country side (Ger 生活) での新しく生まれた子供の誕生パーティを通して伝統に親しんでいるのだなあと思いました。

「新しい生命（いのち）」を授かった喜びを特別な Ger をこしらえ家族友人が集う遊牧民らしい伝統行事を紹介してもらいましたが、モンゴルへますます行きたくくなりました。

第 2 部：グループミーティング

全メンバーを数人の小グループに分け、私は所属した第 6 グループで 4 ヵ国（オランダ、ドイツ、韓国、日本）のメンバーと話合いました。

◆ ディスカッションでは、サーバス参加のいきさつ、旅行歴やホスト先での素晴らしい経験共有しました。

◆ 私は、45 年前にサーバスに参加以来日本でのホストだけでなく過去に居住していたアメリカでの楽しいホスト体験をお話しました。どの人も旅行が好きで、各自の旅行での経験で話が盛り上がりました。

* 時間が限られ十分な話し合いができませんでしたが、次回への参加を誘う良い企画でした。

第4回東アジア地区オンライン交流会に参加して

九州支部 M M

前回の台湾に続いて、2 回目の東アジア地区オンライン交流会への参加でした。今回のテーマは、「Mongolia Nomad Life（モンゴル遊牧生活）」。3 年前に東アジア会議がモンゴルで開催された時、九州サーバスの仲間と参加しましたが、その時のモンゴル大草原の雄大な景色を思い出しながら、興

味深く参加させていただきました。

新しく家族を持つ若者のためのゲル（移動式テント）を作る儀式やその様子、伝統楽器「馬頭琴」とエレキの融合、ゲルで子供の誕生日を祝う様子など、旅行だけでは味わえない貴重な映像やプレゼンを視聴できました。3年前に大変お世話になったサーバスモンゴル会長のHさんやメンバーの方々の姿も拝見できました。

家畜の食料を求めて遊牧生活をする、また、よりいい仕事等を求めて何回も転居する世界の人々の、そのような生活を思う時、私はふと考えました。一旦家を構えると、その土地を離れることなく、生涯をそこで暮らす（であろう）私の現状は、断捨離できずに荷物がどんどん増えるばかり。もしこのNomad lifeができれば、シンプルでよりスマートな生活になるのかな…？！

3. My Memories in August-- Never Again! Stop the War!

東海北陸支部 IM



伊勢 常照寺

8月6日 届け世界へ 響け平和の願い！今年も広島に想いを馳せ、伊勢は常照寺において平和の鐘を打ち鳴らした。8時15分、黙祷の後、坊守さんの指導のもと、11人で鐘を撞き、その後、お寺近くの我が家へ移動、87歳の元教師による、原爆投下を描いた紙芝居「二度と」の実演に心揺さぶられ、参加者の伊勢の空襲体験に耳を傾け、平和の大切さを身に沁みて感じた。この日、全国で平和の鐘が鳴り響いた。

8月9日 長崎の日、長崎にて平和祈念式典が83カ国の参列の下、執り行われた。11時2分自宅で黙

祷。この日、世界のファッション デザイナー、三宅一生さんの訃報が伝えられた。ご冥福をお祈りする。三宅一生さんの、被爆者や核のない世界を求める人々を勇気付けたNYタイムズへの寄稿を思い出した。広島で生まれ、7歳の時に被爆、その体験をあまり語ることはなかったが、2009年、当時のオバマ大統領の「核なき平和」の演説を聞き、生き残ったものとして、発言してゆかなければと決意。被爆時の惨劇を記すとともに大統領の広島への訪問を呼びかけた。2016年に実現。

同時に、4年前のイギリス、サーバスの旅のAさんとの出会いが甦った。ロンドン塔の前で待つ私の前に現れるや、その第一声が、“Issey Miyake!”。私のプリーツ プリーズの小さなショルダーバッグが彼女の目に留まったのだ。私達の距離はいつべんに縮まった。Issey Miyake Style の大好きな Aさんはロンドンのサーバスのデイ・ホ



私の旅のお供のIssey Miyake, Pleats Please のバッグ

スト。 コロナ禍で一度諦めたが、私たちの願いはいつか伊勢で再会する事。 そして、核兵器のない世界、ウクライナの平和。 合掌



常照寺の座式鐘楼

August 6th this year marks the 77th anniversary when in 1945 United States Forces dropped the first atomic bomb on the city of Hiroshima in Japan, killing an estimated 140,000 people.

Three days later, U.S. forces dropped a second nuclear bomb on Nagasaki, killing an estimated 75,000 people. Thousands more died in the following months and years from radiation sickness. On this date, people from across Japan and around the world gathered in Hiroshima to honour the victims of the world's first

nuclear attack and to call for an end to weapons of destruction.

In Ise City, Mie Pref, far away from Hiroshima, after a silent prayer at 8:15 a.m. we rang the bell at the exact time the atomic bomb was dropped on Hiroshima 77 years ago. Afterward at my house near the temple, Kamishibai “Never Again”, a traditional Japanese picture story of “nuclear disaster” was performed by an 87-year-old woman. We then listened to “experiences of the Air Raids in Ise” by participants.

August 9th commemorated Nagasaki Day, Nagasaki Peace Ceremony was held with 83 countries. I would, at this time, like to express my deepest sadness on the passing of world-renowned Japanese fashion designer Issey Miyake who was born in Hiroshima in 1938. Issey Miyake was 7 years old when the United States Forces dropped an atomic bomb on Hiroshima. He never spoke publicly about this disaster in his life, only breaking silence once in a 2009 New York Times article calling for nuclear disarmament. He realized that he



紙芝居[「二度と」]の実演

had a responsibility to speak out as a survivor after listening to President Obama’s speech seeking to promote peace and security for a world without nuclear weapons. He wrote “When I close my eyes, I still see things no one should ever experience: a bright red light, the black cloud soon after, people running in every direction trying desperately to escape.” Miyake urged President Obama to visit Hiroshima which he finally did in 2016.

The first time I met my English friend A. in front of the Tower of London, she noticed the small 'Pleats Please' bag on my shoulder designed by Issey Miyake. We enjoyed spending time in London, discovering a sale of Issey Miyake clothing. A. was determined to visit me in Ise. However, due to the Corona Virus pandemic, she gave up her dream of visiting Ise, Japan until it is safe to do so. Our wish is that we will meet again in Japan in the near future.

4. 春は曙、、夏の頃は宵なり、、

近畿支部 KK

我が庵は都の東北人の住むと能の謡ふうに書き出しまして、京都市の東北の位置、洛北に住んでおります。近くには下鴨神社や、京都御所も、住まいの表道は高野川に面して自然溢れる風景、鹿が八瀬の山手から降りてきて川辺にいることも常です。裏道は昔の若狭街道で、先日も街道沿いに安土桃山時代から続く平八茶屋で、麦とろ飯を食しましたが、さすが、何百年も続く店、格別の麦とろご飯でした。高野川に沿って大原ま



部屋からみる朝日



秋の自宅前のバス停



平八茶屋

でバスで30分、毎日曜の朝市へ行くのが楽しみです。その先は花脊峠、大悲山峰定寺まで、我が家からバスで1時間30分年に数回、バスに揺られて山里の桜、紅葉を楽しみに、春はあまご夏は鮎を食べに行くのが楽しみです。我が家からの眺めは(お茶でも飲みながらぼんやりみる)四季折々、最高にわたしを楽しませてくれるもので、大のお気に入りです。春は曙、、、、夏の頃は宵なり、、、、秋は夕暮れと、清少納言の枕草子よろ

しく、その風情が楽しめ、まるで平安時代の人も楽しんだであろうこの楽しみがいつまでも長く続くことを願いながら日々くらししております。

5. あとがきにかえて

NS

サーバス国際会議 SICOGA (Servas International Conference and General Assembly) の協議日程が決まりました。2022年11月22～28日に本会議がインドの Asia Plateau Centre in Panchgani で予定されています。日本から対面の会議へ参加する方は今のところいないのですが、オンライン参加も可能なので、会長とユース部長が参加の予定です。会員の皆様もオンライン参加が可能です。ご希望の方は直接お申し込みください。また申し込まれたら私の方にも連絡をお願いします。締切は9月15日となっています。

少しずつ議案なども送られてきています。国際サーバスの第一の基本原則は、「人間の尊厳と価値、そしてより平和な世界の基盤としてのすべての人間の平等な権利を信じること」ですが今回議案1に次

の原則を付け加えることが提案されています。

「私たちが地球を尊重し、守る責任を受け入れ、相互依存する自然界のあらゆる側面をつなぐ生命の網を認識すること」

巻頭にも書いていますが、気候危機に対する国際サーバスの姿勢を表すもので、この議案には大いに賛成したいです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

...